

News Letter

ニュースレター



2023年7月26日



「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約締結について ～船橋株式会社 of サステナブル経営をサポート～

名古屋銀行（頭取 藤原 一郎）は、船橋株式会社（代表取締役 舟橋 昭彦）と「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

当行は、今後もグループ一体となり、銀行の既存のビジネスモデルに捉われない持続可能な収益機会の創出及び付加価値の高いサービスを提供し、さまざまなお客さまの経営課題解決を通じて地域社会とともに未来を創造してまいります。

記

1. 契約締結日 2023年3月20日（月）
2. 融資金額 50百万円
3. モニタリング期間 5年
4. 資金使途 事業資金
5. PIF 評価書 添付資料をご参照ください。

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

6. 船橋株式会社の概要

代 表 者	舟橋 昭彦
本社所在地	名古屋市中村区名駅五丁目 23 番 8 号
業 種	合羽、防水エプロン製造・加工・販売
設立年月日	1951年10月15日

<記念盾贈呈式の様子>



株式会社名古屋銀行
常務取締役
服部 悟

船橋株式会社
代表取締役
舟橋 昭彦 氏

船橋株式会社
取締役統括部長
森 貴司 氏

※ 贈呈式は 2023 年 6 月に行われ、当時の肩書にて掲載させていただいております。

参考：「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の取り扱い開始について

https://www.meigin.com/release/files/20220111meigin_PIF.pdf

以 上

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～ 船橋株式会社 ～



2023年3月20日
株式会社名古屋銀行
法人営業部 法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、船橋株式会社に対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎん PIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、船橋株式会社の企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	船橋株式会社
所在地	愛知県名古屋市中村区名駅五丁目 23 番 8 号
従業員	35 名 ※2023 年 3 月末時点
事業内容	合羽、防水エプロン 製造・加工・販売

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	50,000,000 円
資金使途	設備資金
融資・モニタリング期間	10 年

目次

1. 企業情報	3
①会社概要	
②沿革	
③組織図	
④企業理念	
2. 事業内容	8
①概要	
②取扱商品	
3. その他の活動	12
①安全なモノづくり環境	
②女性・シニアの活躍	
③インターンシップ・プロボノ受け入れ	
④寄贈	
⑤アップサイクル製品	
4. インパクトの特定	15
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図	
③国内のインパクトニーズ	
5. 測定する KPI	20
・ポジティブインパクトの拡大	
・ネガティブインパクトの縮小	
6. インパクト管理体制	21
7. モニタリング方法	21
8. 総括	21

1. 企業概要



FUNAHASHI
RAIN WEAR & APRON

① 会社概要

会社名	船橋株式会社
創業年	1921年
設立年月日	1951年10月15日
代表取締役	舟橋 昭彦
本店所在地	愛知県名古屋市中村区名駅五丁目23番8号
従業員数	35名 ※2023年3月末時点
決算日	7月31日



② 沿革

大正 10 年

初代社長舟橋勝治が名古屋市中村区志摩町に於いて船橋商会（防水布製造販売）を創業

昭和 26 年

船橋防水布株式会社設立

昭和 32 年

長者町繊維問屋地下街に出張所開設
名古屋市中村区向島町に第一期縫製工場完成

昭和 41 年

名古屋市中村区向島町に第二期縫製工場完成

昭和 47 年

名古屋市中村区名駅五丁目に本社ビル完成
同時にレジュー部門に進出、主にゴムボートを取り扱う

昭和 50 年

資本金 1,600 万円に増資
愛知県地震対策委員会にて雨衣供給会社に指定される

昭和 51 年

名古屋市中村区向島町に第三期縫製工場完成

昭和 53 年

舟橋浩、二代目社長に就任

昭和 60 年

不動産部門として（株）志摩ビル建設及び、そのテナントビルを名古屋市名駅三丁目（国際センタービル前）に完成

平成元年

レジャー部門として、ゴアテックスと業務提携し、東海地区雨衣の代理店契約を締結

平成 11 年

資本金 3,000 万円に増資

平成 14 年

レインウェアの生産拠点として、中国に進出

平成 15 年

舟橋昭彦、三代目社長に就任。舟橋浩、会長に就任

平成 16 年

業務基幹システムを一新、社内 LAN を導入する

平成 17 年

環境保護に取り組み、エコロジー商品の企画開発に取り組む

平成 22 年

安全をコンセプトにした商品の企画開発に取り組む

平成 25 年

ミャンマーでの生産を開始する

平成 26 年

大学生の長期インターンシップの受入を開始する

平成 28 年

ゴールドマンサックス中小企業経営革新企業に採択される

平成 29 年

とぅいんくる☆コート of の取組し子ども達を事故から守る活動をする

平成 30 年

三機関協働事業（愛知県、名工大）産官学で新防水エプロンの開発を開始
社会人インターンシップ事業の取組を開始する

令和 2 年

7社連合を立ち上げ医療用ガウンの生産を始める
トヨタ自動車様からトヨタ生産方式を学び生産量が 100 倍になる

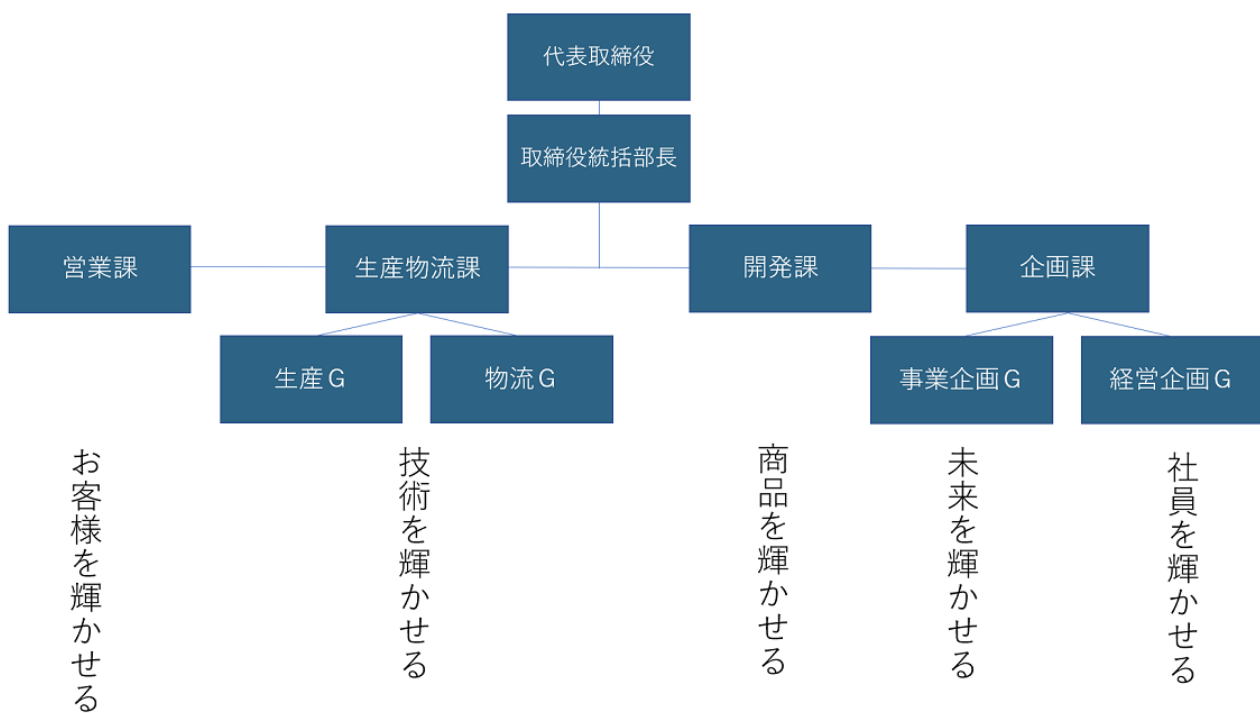
令和 3 年

創業 100 周年

令和 5 年

中川区に製販一体の社屋完成
第三期縫製工場を向島ラボ&オフィスに改装

③ 組織図



④ 企業理念

企業理念

『人や大切なものを雨や水から守る』

■ 使命感（ミッション）

『日本トップの防水加工技術・企画・開発で社会へ貢献している』

■ 作りたい未来（ビジョン）

『ハードな現場で働く人を生き活きと輝かせたい』

■ 提供できる価値（バリュー）

『あなたのボヤキをカタチにします』

当社が作るものは時代に合わせて変化をしてきたが、その中でも100年間の歴史を支え続けてきたものは、創業者より受け継がれてきた失敗を恐れない「チャレンジ精神」と「人を育てるという想い」との考えである。

当社では現在も、このチャレンジ精神によりアップサイクルや水産カップに積極的に取り組み、人を育てるという想いから新卒採用やインターンの受け入れを行っている。

100年を続けてきた防水技術にこれらの想いを掛け合わせ、雨だけでなく、油・暑さ・汚れなどの「滴（テキ）の中で懸命に働く人たちが」ヒーローのように生き生きと輝いている未来をつくるため、お客様に喜ばれるモノづくりを続けている。

2. 事業内容

① 概要



当社は大正十年創業の老舗カップ・エプロンメーカーである。主にレインウェア（カップ）と防水エプロンなど「防水」に特化した商品を製造・販売し、自転車通学用レインウェア、鉄道、工事現場、飛行場、魚市場または警察、消防、学校給食等の官公庁など多方面で採用され、業界内での地位を確立している。

防水に関連する製品を作り始めて100年以上という長年の実績から、顧客ごとの課題を解決するための提案ができることが当社の特長であり、レインウェアを着る目的である「濡れない」こと以外にも、「フードの一部を透明に」「裾にファスナーを」「血汚れが落ちやすい素材で」など現場に合わせた様々な仕様変更に対応する提案力と柔軟性、さらにはサイズバリエーションの豊富さにより、快適・安全・清潔かつ使いやすい商品を提供し続けてきた。

2021年には創業100周年を迎え、今後とも商品を通じて魅力ある現場をつくることを目標に、より良い商品開発に努めていく方針である。

②取扱商品

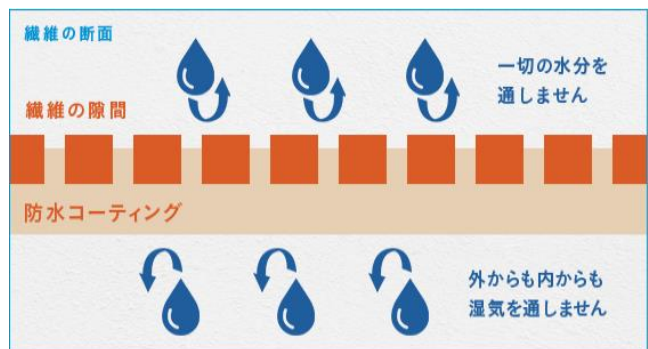
(1) レインウェア



当社のレインウェアは、雨天時にも安心・快適に作業が行えるように、高い防水性と着心地の良さ、品質管理の徹底を追求している。不快感や蒸れ感を軽減する超軽量で通気性の良い素材を使用しており、誰にでもジャストサイズのレインウェアが着られるよう幅広いサイズ展開の製品も取り揃えている。反射帯を取り付けて夜間の視認性を高めた製品、レインウェアの色や反射帯の素材を自由に組み合わせられる製品等、顧客ニーズに合わせた商品展開を行っている。中でも、フルハーネスの上から着用できる高所作業用モデルの当社独自のレインウェアは、安全性・機能性の両面に優れた製品として高い評価を得ている。

●防水性

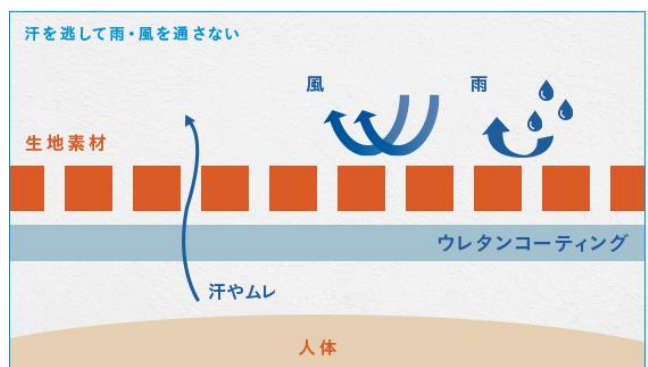
裏面にポリウレタンや塩化ビニール（PVC）をコーティングして内外の湿気の通過を防ぐとともに、すべての縫い目にシームテープを貼ることで、水の侵入を防いでいる。



●透湿性

当社のレインウェアは、外側からの水は通さず、内側にこもった汗や水蒸気はポリウレタンコーティングを通して外側に排出する素材を採用している。

この性質により汗やムレを防ぎ、快適な状態で作業を可能としている。

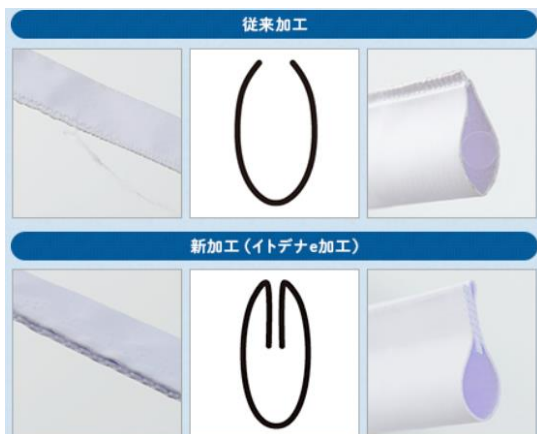


(2) 業務用防水エプロン



当社は大正10年（1921年）から防水商材を取り扱っており、防水エプロン製造に関しても、60年以上の歴史を誇る。顧客の声を取り入れながら商品開発を行おうとする組織文化が醸成されており、日本で初めて食肉加工業専用の作業着を開発した実績を持つ。

不快な環境で働く人たちを助けたいという想いのもと、現場の職人や作業者に直接意見を聞き、一緒に開発を進めていくやり方に加え、国内では珍しい完全国内生産のもと製造される高品質な製品は、多くの顧客から高い信頼を獲得している。



● 異物混入防止策

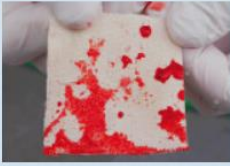
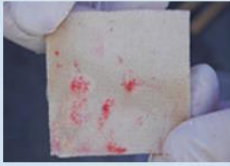
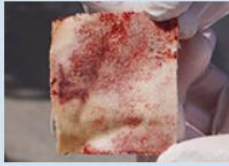
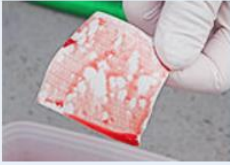


当社のエプロンのヒモは裁断面を内側に折り込み熱で溶着する「イトデナe加工」を施している。

この加工により、長年使用したエプロンの断裁面より基布が出てくることを防ぎ、作業中の異物混入リスクを低減している。

●防血性

独自に開発したパールテックス仕様で、高い防水性・防血性を実現している。動物の血液を用いた自社実験でも、時間が経ってしまった血汚れも落ちやすいことが検証済みであり、快適で清潔な作業をサポートしている。

※血液を入れた容器に生地を浸し、8時間後と24時間後に水洗いをすることで、どれだけ汚れが落ちやすいかを比べた実証実験結果は下記の通り

	生地を浸したとき	8時間後に水洗い	24時間後に水洗い
帆布			
タフブレード			

3. その他の活動

① 安全なモノづくり環境



工場での作業は、熱溶着機（ウェルダ）による火傷や、生地を裁断する際の切り裂き事故などの危険が付きまとう。

当社では「安全なモノづくり」ができるように熱ではなく超音波で溶着加工が可能な超音波ミシンの導入や、危険な手動裁断を安全に行うための制御機能付きウェルダ、自動裁断機 CAD/CAM の使用等により、高齢の作業員でも安心・安全に作業できる環境を整えている。

今後とも現場の意見を積極的に取り入れ、よりよい作業環境を構築していく方針である。

② 女性・シニアの活躍



当社の工場作業員の大半は女性であり、女性の労働環境整備の取組も数多く行っている。

- 出産休暇・育児休暇を取りやすい体制作り
- お子様の保育時間に合わせた勤務体系
- お孫さんの誕生に合わせた休暇制度
- 介護のためのサポート休暇 など

女性の働き方の変化に合わせた体制を整えることで、負荷なく楽しく働ける会社・工場を目指している。



当社はベテランの職人も多く、製造部門の6割が60歳以上であり、中には80代のスタッフも在籍している。

国内の職人が減っている縫製業界で、当社はシニアの方が中心となり、国産防水エプロンの生産技術を次の世代へと伝承し続けている。

希望によってはフルタイムでなく短時間勤務へ切り替えるなどの制度も整えており、製造業未経験者も含め、何歳からでも「働きたい」という意欲のある人間のチャレンジを支援する職場が形成されている。

③ インターンシップ・プロボノ受け入れ



当社では実際の新規プロジェクトに参画してくれる、長期インターン生（半年間）や、自らの専門知識やスキルを活かすプロボノ社会人を、積極的に受け入れている。

若い人材、意欲的な人材に対して、商品企画や営業などを通して、自身の試行錯誤を繰り返しながら挑戦する機会を提供しており、当社の従業員だけでなく、更に広い範囲での人材育成を実現している。

④ 寄贈



当社は社会に貢献したいとの思いを強く持っており、今までも寄付・寄贈というかたちで活動を行ってきた。

新潟市にある翠松(すいしょう)保育園においては、新潟大学 NUTS と新潟警察本部、当社にて共同で「たなばた☆交通安全イベント」を開催し、年長組17名に高視認性子ども用レインコート「とういんくる☆コート」を贈呈している。

「とういんくる☆コート」は(一財)日本交通安全教育普及協会が定めた「児童向け高視認性安全服」の規格と約500名の母親に実施したアンケート結果を基に製作されたもので、薄暮時や雨天時など視界が悪く事故が発生しやすい時に、蛍光カラーの生地や反射材などを使用した「とういんくる☆コート」を着用することによって、いち早くドライバーに子どもの存在を認知してもらう効果があり、交通事故防止に貢献している。

⑤ アップサイクル製品



捨てられるはずだった廃棄物や不用品を、新しい製品にアップグレードさせた「アップサイクル製品」の企画・製造にも注力している。

エアバッグの高い防水性や耐熱性、丈夫さ等の特徴を活かしたエプロンやアウトドア用バッグを、トヨタ自動車グループの豊田合成㈱と連携して、リサイクルの難しいエアバッグ生地を生まれ変わらせている。この精神に賛同した名古屋の老舗の飲食店「山本屋総本家」とも、上記製品を基にした調理用エプロンを共同企画し2023年2月4日より同社本店で実際に使用されるなど、時代の変化とともに当社は製品の幅を広げることに成功した。

今後とも製品のブラッシュアップを重ね、SDGsへの貢献という観点だけでなく、高いデザイン性と機能性を持った商品としてブランド地位の確立を目指している。

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により船橋株式会社の主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。船橋株式会社の業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。船橋株式会社の事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。川上・川下の事業活動については船橋株式会社が直接関与できないため次の事項を検討する。

ポジティブ面では川上・川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に船橋株式会社の事業が貢献できることがないか検討する。

ネガティブ面では川上・川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

②インパクト分布図

インパクトカテゴリ	川上の事業						同社事業							
	【 1394 】		【 2219 】		【 2220 】		【 1410 】		【 2219 】		【 2220 】		【 3290 】	
	ひも類、ロープ、よ り糸及び網製造業		その他のゴム製品製造業		プラスチック製品製造業		衣服製造業、（毛皮製 衣服を除く。）		その他のゴム製品製造業		プラスチック製品製造業		他に分類されないその 他の製造業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	
水（入手）							★★							
食料														
住居	★													
健康・衛生			★		★	★			★		★			
教育														
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	
エネルギー														
移動手段														
情報														
文化・伝統														
人格と人の安全保障							★							
正義														
強固な制度・平和・安定														
水（質）		★		★★		★★		★★		★★		★★	★	
大気		★		★		★		★		★		★	★	
土壌				★★		★★				★★		★★	★	
生物多様性と生態系サービス														
資源効率・安全性		★		★		★		★		★		★	★	
気候		★		★		★		★		★		★	★	
廃棄物		★		★★		★★		★		★★		★★	★	
包摂的で健全な経済	★		★		★		★		★		★		★	
経済収束														

●川上事業

川上の事業としては、当社製品の原材料となる紐やゴム・ビニール生地等の製造業者が該当している。サプライチェーンを形成し、あらゆる分野で雇用創出に寄与するとともに、経済全体を支える製造業に対して、ポジティブインパクトとして『雇用』『包摂的で健全な経済』が確認された。（『住居』については当社事業との関連はないものと見なし分析対象外とした。）

一方で、ネガティブインパクトとしては『健康・衛生』『雇用』『水（質）』『大気』『土壌』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』について確認された。主な原因としては製品の製造・加工・配送を行う過程で発生する有害物質・廃棄物と考えられるが、当社としては環境負荷低減につながる原材料の使用や、計画的な仕入による配送回数低減を図り、ネガティブインパクトを縮小させる。

●当社事業

レインウェアやエプロンを高品質かつ多種多様なバリエーションで製造する当社事業のポジティブインパクトとして、『健康・衛生』『雇用』『包摂的で健全な経済』が確認された。

雨や海水、高温の油、魚肉の血汚れといったさまざまな滴（テキ）から働く人の身を守る当社製品は『健康・衛生』のポジティブインパクト拡大に大きく貢献し、女性・シニアの活用やインターンシップ・プロボノ受け入れ等、人材の育成と良好な労働環境への取組は『雇用』に関するポジティブインパクトに

貢献している。

サプライチェーンを形成するとともに、着用する人間が働きやすいよう設計された高品質な商品は使用者の生産性を高め、『包摂的で健全な経済』への貢献が大きく、今後とも当社独自製品の開発と事業発展を通してインパクトを拡大させていく方針である。

一方で、ネガティブインパクトとして『水(入手)』『健康・衛生』『雇用』『人格と人の安全保障』『水(質)』『大気』『土壌』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』について確認された。

環境面におけるネガティブインパクトについては、製品の製造・加工・配送を行う過程における水や原材料の大量使用や、有害物質・廃棄物の発生が主な要因と考えられる。当社としてはアップサイクル製品等の廃棄物・不用品を利用した製品の開発により『資源効率・安全性』のネガティブインパクト縮小を図っていくとともに、他社の廃棄物削減にも寄与することでポジティブな影響も与えている。環境に配慮した原材料を使用した製品の開発や効率的な生産方法の確立を進め、特に影響の大きい『水』『土壌』を中心とした環境面でのネガティブインパクト縮小を目指す方針である。

なお、『雇用』『人格と人の安全保障』については、男女を問わない平等な雇用とOJTを中心とした人材教育、働きやすい安全・安心な労働環境の整備を進め、ネガティブインパクト縮小を図る。

インパクトカテゴリ	川下の事業							
	【 4641 】		【 4669 】		【 4771 】		【 4791 】	
	繊維、衣料及び履物卸売業		廃棄物・スクラップ及び他に分類されないその他の製品の卸売業		専門店による衣料、履物及び皮革製品小売業		通信販売またはインターネットによる小売業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	
水（入手）								
食料								
住居								
健康・衛生	★		★		★			
教育								
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー								
移動手段								
情報								
文化・伝統								
人格と人の安全保障								
正義								
強固な制度・平和・安定								
水（質）		★		★				
大気		★		★				
土壌								
生物多様性と生態系サービス		★		★				
資源効率・安全性			★					
気候		★	★	★				
廃棄物		★	★	★		★		★
包摂的で健全な経済					★		★	★
経済収束			★					★

●川下事業

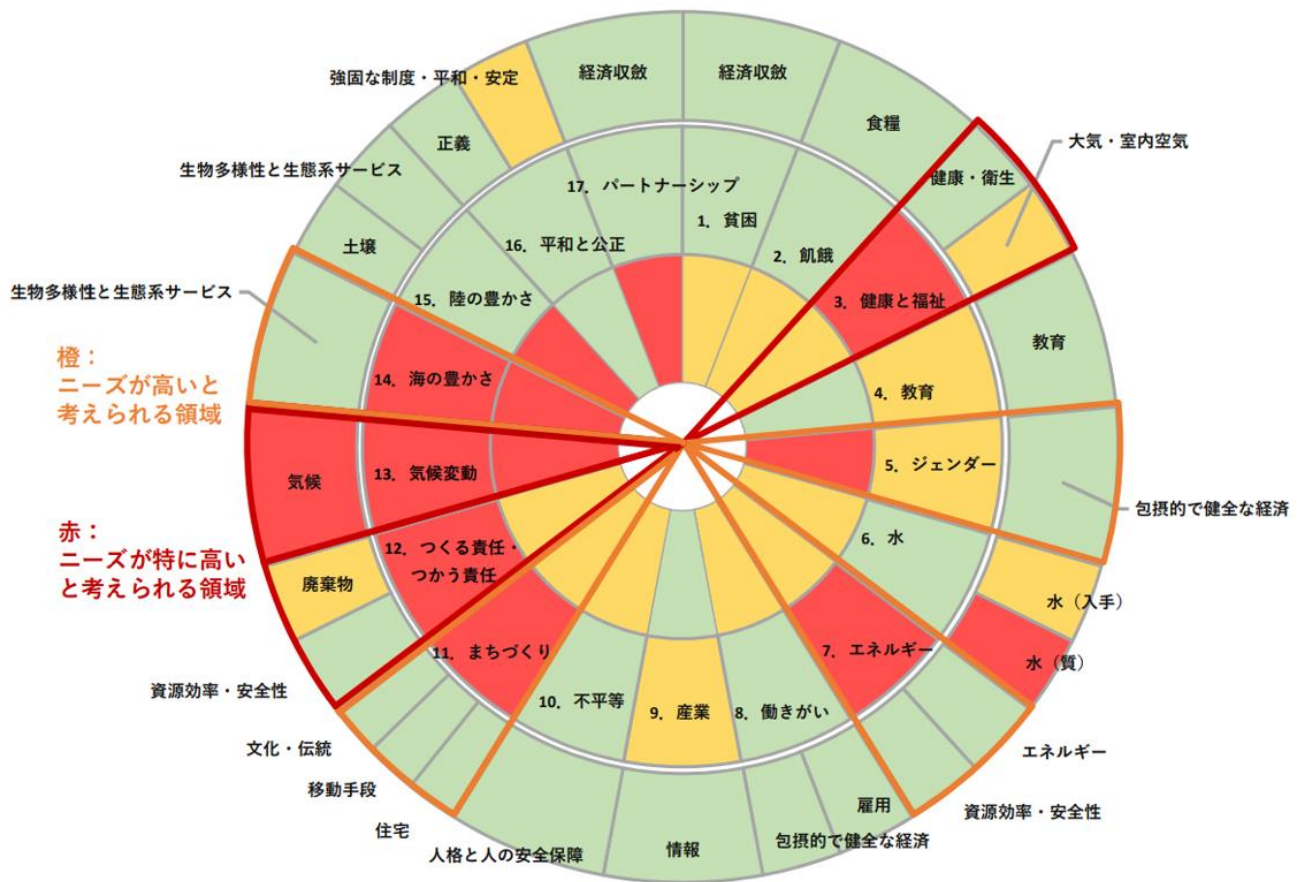
川下の事業としては、当社製品を取り扱う卸売業者やネット販売も含む小売店業者が直接的には該当し、ポジティブインパクトとして『健康・衛生』『雇用』『包摂的で健全な経済』『経済収束』が認められ、上記川下事業者を通じて自社商品を市場に供給し、多くのエンドユーザーの事業活動や生活を支えることで幅広い分野のインパクトに影響を与えている。（『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』については、廃棄物・スクラップの再利用目的の卸売事業が対象となるため、当社事業との関連性ないため対象外とした。）

一方で、ネガティブインパクトとして『雇用』『水（質）』『大気』『生物多様性と生態系サービス』『気候』『廃棄物』について確認された。環境面については製品の配送を行う過程で発生する有害物質・廃棄物（商品の梱包材含む）が原因と考えられ、当社としては販売計画の管理を厳格に行い配送回数の低減に努め、ネガティブインパクト縮小を図っていく。

③ 国内のインパクトニーズ



環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。

次ページの「5. 測定する KPI」において名古屋銀行が特定した船橋株式会社のインパクトと対応する SDGs のゴール「3, 9, 12, 13」について、赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。





5. 測定するKPI



① 製品・サービス品質の向上とサプライチェーン維持

項目	内容
インパクトの種類	経済面でポジティブインパクトを拡大、社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」「包摂的で健全な経済」
関連するSDGs	 
対応方針	顧客満足度向上による事業拡大、BCP対策、サプライチェーンの維持
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2028年度までに、顧客ごとの個別対応力をさらに高め、製品・サービス品質向上させることで、2023年度対比で売上高を150%増加させる（実績報告） ・BCP対策の強化のため災害対策マニュアルを策定し実施する（内容報告）

② 労働環境の整備、雇用の創出

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大、社会面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」「雇用」
関連するSDGs	 
対応方針	平等で働きやすい労働環境の整備、雇用の創出
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・女性従業員比率50%を維持する。（実績開示） ・希望者に対して育児休暇取得率100%を達成する（実績開示） ・新卒・中途に関わらず、毎年1名以上を採用する（実績開示）

③ 環境に配慮した商品展開

項目	内容
インパクトの種類	環境面でのポジティブインパクトを拡大、環境面でのネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「廃棄物」「資源効率・安全性」
関連するSDGs	 
対応方針	環境に配慮した製品開発
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・アップサイクル製品等の環境配慮型製品の取扱量を150%増加させる（内容報告）

6. インパクトの管理体制

船橋株式会社は代表者を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部及び法人本部が連携してSDGsの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎんPIFにおけるインパクトについては、代表者と法人本部が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役 舟橋 昭彦
実行責任者	企画課 大谷 真奈美

7. モニタリング方法

船橋株式会社に対するめいぎんPIFのモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年1回以上の協議を通して実施する。年1回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定したKPIの達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証しKPIの修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPIの追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

船橋株式会社の事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。船橋株式会社がKPI達成を目指すことで社内、地域社会への大きな貢献が想定され、UNEP FIの「ポジティブインパクト金融原則」、ESG及びSDGsの観点からも十分な適合性を確認した。